

夢に向かって生きる



大和北小だより
R4. 6. 7

5月28日 運動会 “輝く命”

深めよう全校の仲 あふれる笑顔

～協力・全力真剣・声をかけ合う～

6年生の子たちが、担任の先生と一緒に自分たちの願いや理想を出し合い、全校に提案して決めた、この運動会スローガン。素敵ですよ。

私たち大人が見ても、社会の中で生きていく上で大切な願いや理想が込められていると思います。(「全校」の部分“地域”とか“職場”とか“家族”とかに置き換えてみると、子どもたちの素直な願いが胸に響いてきます。)

5月の連休明けからの約3週間の取組でしたが、どの子も、この運動会の取組を通して見事な成長を遂げました。

人と共に何かを創り上げようと取り組む中で、“協力”して取り組むことの難しさや心地よさ、物事に“全力で真剣に”取り組むことのすばらしさ、“声をかけ合う”ことの大切さ等、今後、生きてゆく上で大切な考え方や人との関わり方を学んできたと思っています。

そして、私たち職員は、子どもたちが全力真剣にがんばる姿や成長する姿に、日々驚きと感動をもらってきました。



人と“協力”して取り組むって、簡単なことではありません。“声をかけ合う”って大切なこと

自分を中心に考えていた子が、相手のことや周りの子たちの思いに気づき、気を配って動けるようになったり、はずかしさや遠慮から友だちに声をかけることができなかつた子が、「大丈夫?」「がんばろう!」「一緒に〇〇しよう」と声をかけられるようになったり、友だちからの親切に対して素直に「ありがとう」と言えるようになったり、時には、自分が「それはよくない」と思うことは、友だちであっても思いやりをもって「やめよう」と伝えられるようになったり。“協力する”“協力を得る”って、大人の社会の中でも、なかなか難しいことですよ。

そして、その第一歩は、「声をかけ合う」ことからです。

その難しさや、大変さ、大切さや心地よさを子どもたちが、こういった行事の取組を通して経験しておくことは、その子の将来や、未来の社会につながる大切な“学び”だと思っています。

見えてくる“全力真剣”の美しさ。

かけっこは“競技”です。“より速く”を追求し、“全力真剣”を振り絞る姿は、アスリートの姿と重なります。

勝負にこだわり、自分を高めようと努力する姿は、やっぱり美しく、尊いものです。

一方で、かけっこで「負けることになる子」の思いに寄り添ってみると、こんな美しさも見えてきます。

競争においては、どこかの時点で、「自分は勝てないな。」と、負けることを覚悟、自分の限界を受け容れざるを得ない瞬間があります。きっと悔しい思いが伴うでしょう、「もっと速くなりたい」と思いながらも、願いに対して自分の力が及ばないことにはがゆく感じることもあるでしょう。なかには、別に“悔しい”とは思わない子もいるかもしれませんが、そんな子も、自分の能力の限界を受け容れるわけですから、もしかしたら、走ることに限っては“自分へのあきらめ”のような感情をもつことになるのかもしれませんが。

でも、“人生”って そこからが大切なわけで・・・

今の自分の特性や能力を受け容れたうえで、それでもゴールするまで“全力で”“真剣に”走った数秒間にその子の“生きる姿”や“心の美しさや尊さ”があると、私たちは思っています。

最後まで“全力真剣”な子どもたちの姿に、感動しました。

世のため人のために“はたらくこと”のすばらしさ

5・6年生の子たちは、この運動会を実現するために、計画を練り、練習やりハーサルを行い、準備してきました。

私たち職員がうれしかったのは、5・6年生の子たちが、とっても楽しそうに、明るい雰囲気です。“はたらく”ことです。

“はたらくこと”って大変です。思い通りにいかないことは多々ありますし、単純に疲れるし、時には、自分がやりたいことを我慢して仕事を優先することもあります。もちろん、責任を伴いますからプレッシャーもあります。

でも、“はたらくこと”って、自分の“居場所”や“生きがい”を生み出します。

自分のはたらきによって、世の中がよりよく進歩したり、誰かを笑顔にすることができたり、困っている人を支え、助けになれるって、うれしいことです。すばらしいことです。

- 団員をまとめ、運動会を自分たちで盛り上げようと取り組んだ応援団の人
- 代表として全校の前でお話をする担当の人
- 国旗、市旗、校旗を掲揚・降納する担当の人、放送・アナウンスを担当する人
- 着順の判定やゴールテープをもつ担当の人、招集や誘導を担当する人、結果発表をする担当の人

どの役割の人も、この運動会を実現するためには“なくてはならない存在”でした。そして、それぞれが、それぞれの持ち場で自分の役割を誠実に、真心込めて果たす姿に、うまくできたところも、うまくできなかったところも 全部ひっくるめて、“はたらくこと”のすばらしさを感じさせられる姿でした。

こうして子どもたちの素敵な姿を挙げればきりがありませんが、間違いなく、どの子も、それぞれに、この運動会の取組を通して、人と共に生きる中で、大切なことを学んでいます。

そして、子どもたちが一生懸命に取り組む姿や、笑顔で活動する姿を観ていて私たち職員が再認識したのは

子どもたちは、やっぱり 地域の宝 そして未来への希望

運動会当日を迎えるまでに、児童が学年をこえて交わってきたスマイルレターです。あたたかいです。

スマイルレター(2年生から1年生へ)

はじめてならばときは、じぶんのぼしょがわからなくてこまっていたけど、だんだんじぶんでらべるようになってすごいね。うんどうかいまであとすこしだけいっしょにがんばろうね。

スマイルレター(4年生から3年生へ)

ダンス練習の時に、にこにこでダンスをおどっていて、わたしもにこにこになるし、他の学年のお家も人にもにこになって楽しい運動会になると思うよ。

ダンス練習、リズムにのっておどっているのわたしもゆずさんのようにダンスをがんばります。

運動会のおうえんで手をぴしっとあげて、手をそろえてたこうね。本番まであとすこし、がんばろうね。

スマイルレター(6年生から5年生へ)

応援の時に低学年に声をかけてくれてありがとう。最初の頃より自分で動くことが増えているし、前よりも笑顔が増えた気がするよ。はちまきをつけるようになってから、やっとみんなが「白団!!」という実感がわいて「がんばるぞ!!」という気持ちが私は増えてきました。こまったことがあったらなんでも言ってね。ダンスの時は、踊る場所は、はなれているけど、遠くからでもわかるくらいに楽しそうにおどっているのがわかるよ。明日の運動会もいっしょにがんばろうね!!ぜったいかつぞ~



子どもたちも 職員も、“かけがえのない命”を輝かせることができる学校をめざしていきます。

これからも、学校教育に対するご理解、ご支援 よろしくお願ひします。